

研修員's VOICE

Vol. 38

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。



出典:外務省HP



JICA沖縄での修了式にて

氏名: Mr. JALLOH Ibrahim (イブラヒムさん)

国名: シエラレオネ共和国

コース名: 長期研修 ABEイニシアティブ* 琉球大学

研修期間: 2018年9月1日 ~ 2021年9月24日

どのような研究をしましたか？

西アフリカ西部、大西洋に面して位置するシエラレオネは、内戦終結後の復興に伴い電力需要が拡大していますが、電気へのアクセスは都市部でも未だ不安定な状況です。

日本政府はJICAを通じて様々な形で開発途上国を支援しており、その支援のひとつが、人々が電気にアクセスできるようにすることです。私はJICAの長期研修員として、琉球大学の修士課程で、電力システムと再生可能エネルギーについて約2年半学び、太陽光エネルギーを安定的に供給するためのシステムの研究を行いました。



琉球大学の研究室でのイブラヒムさん(右)



インターンシップ先にて

インターンシップ研修

修士課程を修了した後、東京にある八千代エンジニアリング株式会社にて約半年間インターンシップ研修を行いました。アフリカのサハラ地域以南の電力と再生可能エネルギープロジェクトを担当する部門で、プロジェクトの送電、配電、発電等の電力需要を検討しました。研修では、技術のみならず、日本の労働文化や人々の関係性等、色々なことを学びました。帰国後はこの経験を活かして、自国企業と日本企業との関係を強固にし、自国の発展の力になりたいと思います。

コロナ禍での生活を通して

シエラレオネのコロナ感染症の状況は、現在、死亡率も低く、さほど深刻ではありませんが、様々なものを輸入に頼っているため、世界的なパンデミックが間接的に我々の経済に影響を与えています。

日本での生活の半分はコロナ禍であったため、大変なこともありました。この中で学んだ重要なことは、政府や各自治体による規則や規制を、日本の人々が遵守する姿勢です。マスクをする、手を洗う、ソーシャルディスタンス等、忍耐強く継続していくことは大切だと感じました。



横浜での休日

*「アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ(African Business Education Initiative for Youth)は、アフリカ諸国の優秀な若手人材が、日本の大学/大学院での修士課程教育と企業でのインターンシップを実施するプログラムです。アフリカで産業開発に資する日本とアフリカ間での人脈形成や、日本企業がアフリカで経済活動を進める際の先案内人として活躍が期待されます。